

Title	企業倒産の分析
Sub Title	
Author	谷口勝則(Taniguchi, Katsunori) 高橋吉之助
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1985
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1985年度経営学 第417号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0417">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0417</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 谷口勝則

主査 高橋吉之助

副査 柴田典男

所属ゼミナール 矢作恒雄 研

矢作恒雄

## 企業倒産の分析

企業倒産に関する研究は、過去において、数多く行われてきたが、その多くが大企業を対象としており、中小企業の倒産を扱ったものが少ない。また、財務指標を用いた企業倒産の研究は、倒産予測の精度を上げることを過度に強調するあまり、より高い判別力をもつ財務指標を試行錯誤的に選択するという経験的な方法を利用する傾向があり、その基礎となる倒産原因及び倒産プロセスを理論的に検討し、倒産企業の財務指標の特徴を詳細に分析した研究は少ないと言える。

そこで、本研究では、中小企業を対象として、倒産企業の財務諸表に表われる特徴を明確にし、かつ、その結果から、理論に基づいた倒産予測モデルを作成することを目的として、実際の倒産企業データによる実証研究を行っている。

まず、倒産・存続両企業の財務諸表に見られる相違を明らかにする為に、倒産・存続両企業群の財務指標の平均値、標準偏差を計算し、プロフィール分析を行うとともに、両企業群の平均値の有意差検定を行った結果、収益性、長期財務安定性及び資金調達効率に関する指標は、倒産前3年より、倒産・存続両企業間で有意差を示すが、資産効率及び短期財務安定性に関する指標は有意差を示さなかった。次に、企業の倒産プロセスを特定のパターンに分類することの可否について明らかにする為に、倒産・存続両企業群の財務指標に対して、因子分析を行った。その結果、企業の倒産プロセスは、明らかに異なるパターンに分類することはできず、そのパターンは「累積的な収益性の悪化が徐々に支払能力を低下させ、その結果が必然的に資産効率を悪化させることにより、極度の支払能力低下の状況におち入り、倒産へと導かれる。」という特定のプロセスに帰着することが明らかになった。

以上の結果をふまえ、最終的に、回帰分析による数種類の倒産予測モデルを作成して、その比較、検討を行った結果、最良モデルとして、原データ（財務指標値）による時系列逐次体系モデルを提示することができた。